

「温もりを届けたい、手から心へ」……………

たまちゃん通信

平成 27 年 9 月発行 **69-4**

発行：日本のお手玉の会本部 〒792-0013 愛媛県新居浜市泉池町 10 番 1 号

TEL：0897-32-0302 / FAX：0897-32-0311

e-mail：honbu@otedama.jp URL：http://www.otedama.jp

新居浜商業高校の生徒が福島県浪江町を訪問

高校生や仮設住宅の方々と笑顔の「お手玉交流」

愛媛県立新居浜商業高等学校の「浪江プロジェクト」チームは、平成 27 年 8 月 28 日から 31 日の 4 日間、福島県浪江町の高中生や仮設住宅の人たちと、「お手玉交流」を行いました。

新居浜商高は、愛媛県の被災地学校修学旅行事業に参加し、平成 23 年度と 25 年度に、福島県立浪江高等学校の修学旅行団を同校に受け入れ、お互いのまちの歴史や文化を紹介しあうなどの交流を行っています。

浪江高の生徒からは、震災当時の状況や震災後の学校の様子などの紹介があり、新居浜商業からは新居浜市の礎である別子銅山の歴史紹介のほか、校庭での太鼓祭りの再現、法被を着用しての差し上げ体験を行い、調理室では、新居浜の「白いもキャラもっち」や、「浪江焼きそば」の試食を行うなど交流を深めました。



(お手玉についての研修)

(浪江高生との車中でのお手玉)

(仮設住宅でのお手玉交流)

そして今回 3 度目の浪江町訪問を前に、浪江プロジェクトスタッフにより交流内容を検討し、“文化交流”をテーマとし「福島の文化」を学び、「お手玉」や新居浜ゆかりの銅を使った工作の交流を通じて「新居浜の文化」を伝えることにしました。

準備活動では、全校生徒に呼びかけ端布を集めることから始め、ぎこちない手つきでお手玉を作り、日本のお手玉の会から講師を招いて、お手玉の歴史や遊び方、お手玉遊びの心、お手玉を介しての心の温もりを伝えることの大切さを学びました。銅板工作では試作を重ね、銅板の折り鶴や、銅の花の作り方を伝える練習をしました。

準備を整えた新居浜商高「チーム浪江」の生徒 10 人は、7 月末、浪江高校を訪問しました。日程の関係で移動するバスの中でのお手玉交流になりましたが、あっという間に、にぎやかな歓声と、はち切れそうな笑顔が車内にあふれました。

また、仮設住宅でお手玉遊びを始めたところ、ご年配のみなさんも無心にやってくださり、世代を超えて笑顔の花が咲きました。心の垣根がなくなり、深いお話まで伺うことができました。今後は「福島の今・人々の生の声」を愛媛に伝えたい思いで活動していきたいということです。

「このたびのお手玉交流で、『手から心へ温もりを』という、お手玉の底力を実感する体験となりました」という報告が、チーム浪江のみなさんから、日本のお手玉の会に届きました。